



市政アドバイザーからの提言

東京・高梁市政懇談会を開催

5月19日、日本都市センター会館（東京都千代田区）で市政アドバイザーから提言を聞く「東京・高梁市政懇談会」を開きました。

市は、さまざまな分野で専門的な知識と経験を持つ本市出身やゆかりの人を市政アドバイザーに委嘱しています。この日は、小倉基さんと島谷弘幸さんを新たに委嘱し、これで市政アドバイザーは22人となりました。

今回の懇談会には10人が出席し、「観光振興と定住促進」をテーマにさまざまに意見が交わされました。今月号では、この中から主なものを紹介します。

市は、こうした提言を今後の市政に生かしていきたいと考えています。

今回出席の市政アドバイザー

(敬称略・50音順)

氏名	職業等
赤木 恭平	財団法人 全日本ボウリング協会会長
大橋 洋治	全日本空輸株式会社代表取締役会長
沖島 勲	映画監督、元・崇城大学教授
小倉 基	東京都選挙管理委員会委員長、 前・渋谷区長
片山 勝之	日進ゼミ・日進建物株式会社代表取締役社長
島谷 弘幸	東京国立博物館 学芸研究部長
立木 正夫	財団法人 日本バレーボール協会会長
橋本 徹	ドイツ証券株式会社取締役会長、 元・富士銀行頭取
平松 利昭	画家
山田 安之	元・二松學舎大学理事長、 財団法人 斯文会 理事

〔観光振興と定住促進〕

▼高梁をまず知ってもらうことが大切。美術館の展覧会や世界遺産などは、それが大切なもの。素晴らしいものであると前もっての知識があり、それを確認するために訪れている。高梁には昔から教育・文化といった、ほかの町にないものがたくさんある。魅力を絞り込んでのPRが観光客の拡大につながるのでは。

▼ある新聞に高梁キリスト教会に関連した記事の寄稿をした。それを読んだ人が同教会を訪れ、備中松山城にも行ってきたと聞いた。事あるごとに、高梁市をPRしていきたい。

▼11月に、関連する市町村も参加する「ふるさと渋谷フェスティバル」を開催する。100万人を超えるイベントなのでこうした場で、高梁市の物産や定住促進をPRしてはどうか。

地球温暖化防止のため あなたもできる エコライフ

エコライフ10の取り組み

※()内は、一世帯当たりの年間 CO2 削減効果と年間節約効果

①エアコン等の温度設定をこまめに調節しましょう

冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する
(約31 kg/年、約2,000 円/年)

②入浴時のシャワーの流しっぱなしはやめ、お湯が冷めないうちに連続して入浴しましょう

シャワーを1日1分家族全員が減らす
(約65 kg/年、約4,000 円/年)

③短距離の移動は自動車を利用せず、なるべく徒歩や自転車を利用しましょう

週2日往復8 kmの車の運転をやめる
(約185 kg/年、約8,000 円/年)

④お風呂の残り湯を洗濯に使いましょ

約17 kg/年、約5,000 円/年

⑤1日5分間のアイドリングストップを行いましょう

約39 kg/年、約2,000 円/年

⑥家族が同じ部屋でだんらんをし、冷房と照明の利用を2割減らしましょう

約240 kg/年、約11,000 円/年

⑦待機電力を90%削減しましょう

電気製品を使用していないときは、主電源を切り、コンセントからプラグを抜く習慣をつける
(約87 kg/年、約6,000 円/年)

⑧炊飯器はできるだけ保温機能を使わず、電気ポットも長時間使用しないときは、コンセントをプラグから抜きましょ

約31 kg/年、約2,000 円/年

⑨買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選びましょ

約58 kg/年

⑩ほかの用事をしているときに、テレビのつけっぱなしはやめましょ

1日1時間テレビの利用を減らす
(約13 kg/年、約1,000 円)

■問い合わせ 環境衛生課管理係 (TEL) 20259

▼山田方谷についての講演をする中で高梁市の歴史や文化についても紹介した。関東圏では、方谷も高梁市もほとんど知られていない。こうした地域で知名度を上げれば高梁市に新しい光が当たるのではないか。

▼高梁市をPRするのに、市が作成している広報資料は内容が充実している。これらをもっと生かして発信してはどうか。

▼川崎市では、環境面に配慮し

たまちづくりを推進し、教育、福祉、観光開発など市民や団体それぞれが中心となって活力を生み出そうとしている。行政はそれを促進し、バックアップしている。今後も川崎市に暮らしたい人が7割といったアンケート結果がある。定住者を外から連れて来るより、住み続けたいと思わせるような魅力あるまちづくりが重要。

▼移住するということは、よほどのことがないと、やらないだ

ろうし、気楽な話ではない。受け入れる側が何を提供できるかが重要。行政が支援していくなど、地道にやっつけていかないと簡単に成果は表れない。

▼パンフレットを作成し、ホームページでも定住促進の案内を発信されているが、高梁市とかかわりのある人にUターンのPRをしてはどうか。そうした場合に、農地・家屋のあっせんなど、いろいろな優遇措置があれば効果が広がるのでは。

■問い合わせ 企画課公聴広報係 (TEL) 20210

▼スイスのジュネーブ、ローザンヌなどの都市は大きな産業はないが、国際会議が頻繁に開かれ観光客も多い。外国からの訪問者に対して、市民がホスピタリティーに溢れている。こうしたハードウェアではないソフトウェアで栄えている都市を、国や各自自治体はもっと参考にすべきなのでは。